

ツルウメモドキの簡易落葉法

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

ツルウメモドキは収穫後に葉を除去して出荷するが、手作業の場合 2m の枝で 1 本当たり 15 分以上を要する。新たに開発した本落葉法は、収穫後に一定時間常温乾燥して水に生けるだけなので、生産現場で大量処理が可能と期待されている。ただツルウメモドキは 8 月末の青実から 11 月の過熟期まで出荷が長期に渡るため、収穫時期によっては効果が不十分であったり、逆に落果を誘発することが予想される。

そこで 2014 年から 3 年間に渡って異なる時期に収穫し、本落葉法の効果を検討した結果、効果的な乾燥時間が明らかになったので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ツルウメモドキの簡易落葉法は収穫後生け水につけず、日陰(常温の室内)で一定時間自然乾燥する。
- 2) その後、切り戻しをして美咲ファーム (OAT アグリオ(株) ; 100 倍希釈) 溶液に生けると、2 日後には離層が形成される。
- 3) 実の熟度に応じて以下の時間自然乾燥すると、枝を揺すったり手が触れる程度で全葉の 8 割程度が落葉するが、実への影響は見られない。
- 4) 外果皮が青色を帯びる未熟期収穫では、自然乾燥時間を 72~84 時間とする。
- 5) 外果皮が黄色を帯びる適熟期収穫では、自然乾燥時間を 36~48 時間とする。
- 6) 外果皮が裂皮し始める過熟期収穫では、自然乾燥時間を 24~36 時間とする。
- 7) 落葉処理後の実の萎れや裂皮の程度は、手で除去する慣行の落葉法と本方法とで差は無い。

2 試験成果の概要

- (1) 2014 年には適熟期、2015 年には過熟期、2016 年には未熟期のツルウメモドキを収穫して常温の室内で一定時間乾燥した後、切り戻しをして美咲ファーム (100 倍液) に生けた。
- (2) 調査は、美咲ファームに生けた日から 2 日後の落葉数、落果数、枝に残った葉・実数を数えた。また、出荷を想定したシミュレーション後の切り枝品質を調査するため、最終乾燥区の調査終了後に全ての葉を取り除き、常温で 7 日間乾燥した後の落果数を調査した。
- (3) 適熟期収穫 (2014) では自然乾燥を 36~48 時間とすると全葉の 8 割以上が落葉し、落果は全果実の 8% 以下で乾燥 0 時間 (全葉手で除去 : 慣行) と同等だった (図 1)。
- (4) 過熟期収穫 (2015) では自然乾燥 24~36 時間で全葉の 8 割以上が落葉し、落果は全果

実の5%以下で乾燥0時間（慣行）と同等だった（図1）。

- (5) 未熟期収穫（2016）では、8割以上を落葉するのに自然乾燥72～84時間を要したが、落果率は全果実の7%以下だった（図1）。
- (6) いずれの熟期で収穫した枝も、図2③～④のように葉全体が萎れを生じるまで自然乾燥してから美咲ファームに生けると2日後に落葉した。
- (7) (3)～(5)の切り枝の、出荷を想定したシミュレーション後の切り枝品質は、シミュレーション開始日に収穫して全葉を手で除去した（慣行）区と差が無かった（データ省略）。

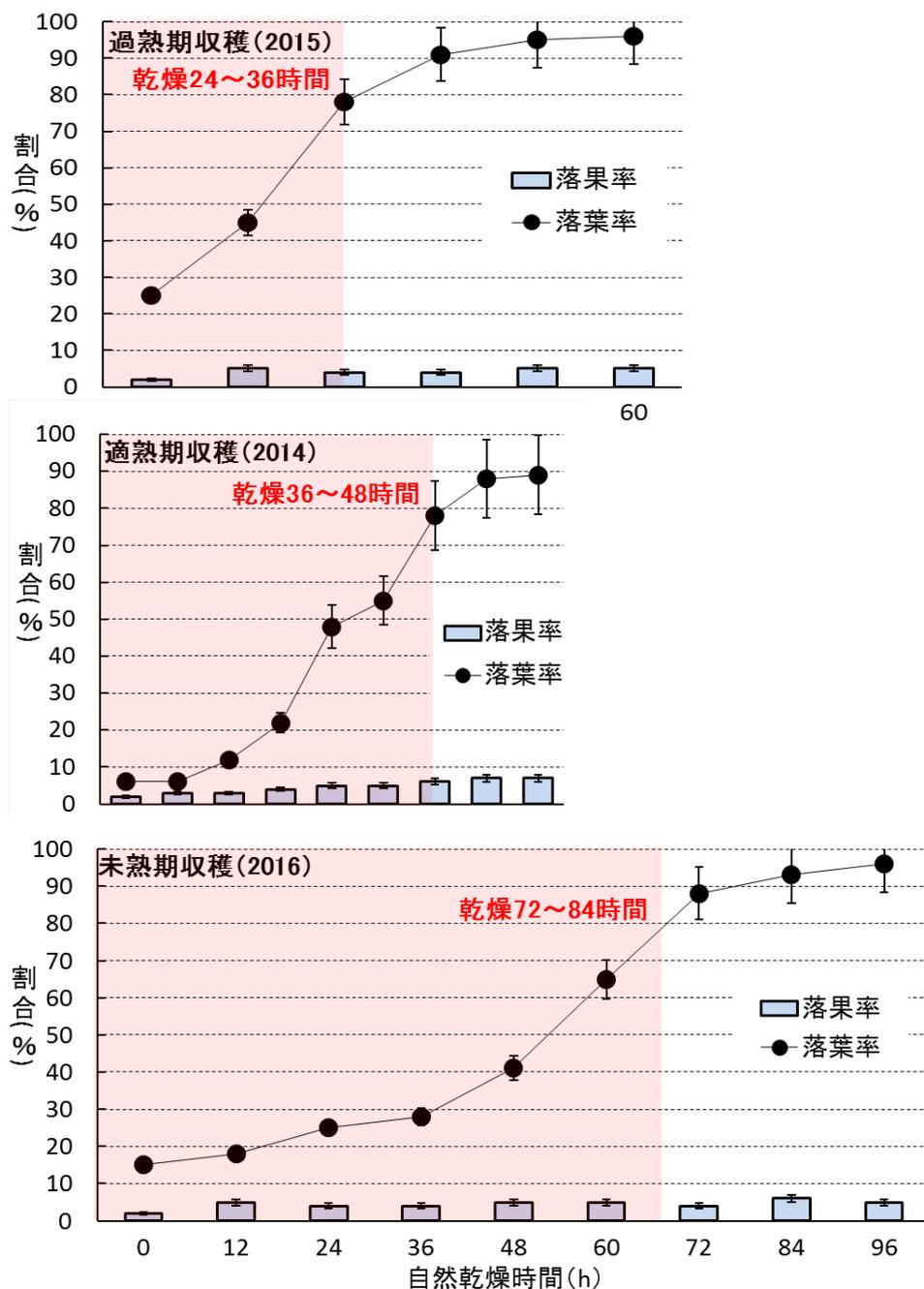


図1 自然乾燥時間が落葉率・落果率に及ぼす影響

注) ・収穫・自然乾燥処理開始：2014年10月20日 (適熟期収穫)
2015年11月5日 (過熟期収穫)
2016年10月11日 (未熟期収穫)

- ・処理場所：屋内
- ・調査：美咲ファームに生けた日から2日後の落葉数、落果数、枝に残った葉・実数を数えた。
- ・ドットに付した上下線は標準偏差を表す (n=4)。



①自然乾燥 0～24 時間



②自然乾燥 36～48 時間



③自然乾燥 60～72 時間



④自然乾燥 84～96 時間

図 2 未熟期収穫における自然乾燥時間毎の葉の様子 (2016)
(③～④の状態まで自然乾燥する)

3 利用上の留意点

- (1) 対象地域は県内全域。
- (2) 秋以降に降水量が極端に少ない年は、本結果より短い乾燥時間で離層を形成することがあるので、葉の萎れ具合も観察しながら自然乾燥を行う。

4 試験担当者

[花き研究室 室長 岸本真幸
	研究員 加藤正浩*
	研究員 池田規子

* 現 農業大学校 教育研修課 講師